

# 「頭、心、（実技では体も）50 分間生き生きと活動する授業の実践」

～これからの社会を担える人材の育成～  
都立南平高等学校 全日制（推進校 2 年目）



## 南平が目指す生徒像

- ・「主体的に考え、行動する力のある生徒」
- ・「世界と協働する力のある生徒」  
すなわち、社会が変化しても周囲や環境のせいにはせず、自分の頭で**考え、動き、改善**していける力、そして世界の様々な文化や価値観を**理解し、尊重**しながら協働できる力のある人材の育成。

## 推進組織 教科主任会・教科会の活用

- 1 全教員が年度当初に AL の目標と計画を立案
- 2 既存組織 → 教科主任会・教科会の活用  
会議を増やさない → 教員の負担は変化なし  
**持続可能な授業改革システム**
- 3 ICT 機器活用の環境整備とスキル・アップ  
情報処理指導主任（ICT リーダー）  
→ 年間 4 回 校内研修会を実施
- 4 各教科で育成すべき資質・能力の確認と共有  
教科会・教科主任会の充実

## 研究授業 11月21日（水）

コミュニケーション英語Ⅲ 3 学年  
「JET、ICT を活用した授業」  
～ブレン・ストーミング、グループ学習、スピーチ～

- ・生徒同士の英会話を重視  
Greeting Review(PC を活用した音読)  
Pair Practice (Troubleshooting の練習)  
Debate
- ・日本人教師と JET が連携した**多面的な評価**  
(会話の躓きを、**自力で回復する力・相互理解**)
- ・生徒が「発信」するためには**知識・理解の「蓄積」**が欠かせない。



## 授業の変容

- 1 生徒による授業評価（7 月）  
昨年度に比べて、科目間のばらつきがなくなっており、概ね好意的な結果 85% を得ている。
- 2 授業観察  
昨年度よりも、各教員の授業が変わり、生徒が主体的に学ぶ場面づくりを意識した授業が増えている。意欲的に学ぶ生徒の姿が、指導改善をさらに推進させる糧になっている。

## 南平のアクティブ・ラーニング

- ・「アクティブ・リスニング」の奨励  
**方法にとらわれるのではなく**、「生徒の頭と心（実技では体も）が活動する授業」の実践。
- ・「知識を活用して考える問い」に導く授業  
課題を論議するために必要な知識と論理を**事前に獲得しておく**ことが大切。
- ・生徒の発言は「誤答であっても大切に扱い、**クラス全体の学び**」に活かしていく授業。
- ・細かに時間を計り、時間を意識させることで、**集中力を高める**授業。

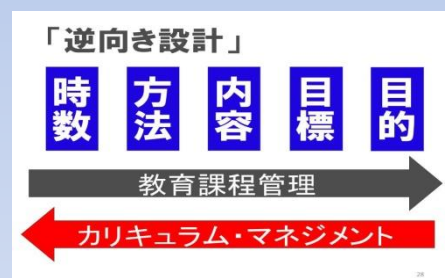


## 第 1 回校内研修会 先進校視察報告

静岡県立静岡高等学校 静岡市立高等学校  
静岡県立掛川西高等学校 浜松市立高等学校

### 視察で学んだこと

- ・授業改善とカリキュラム・マネジメントは**両輪**
- ・**マインドセットの転換** 教科横断的な視点で、「生徒観」「教師観」「地域・学校観」を見直す。
- ・「**逆向き設計**」



### 視察を受けて 南平高校の課題の洗い出し

- ・持続可能な学校活性化に必要なこと
- ・南平高校の強みと改善点
- ・共有すべきミッション（生徒に身に付けさせる力）の再確認

## 成果

各教員の目標設定、校内研修会、先進校視察を通して、生徒が主体的に学ぶ授業がスタンダードになった。また教科主任会を通して、各々行われていた授業改善に教科横断的な視点が生まれ、組織的に「南平が目指す生徒像」に取り組む基盤が出来た。

## 課題

新教育課程検討プロジェクトと関連付けて授業改善を推進していく。  
大学共通テストの導入に呼応した授業の充実を図っていく。